

実体経済の動向

◇生産、出荷はともに大幅減少、在庫は4ヵ月ぶりに微減

(生産——大幅減少)

8月の鉱工業生産(季節調整済み、前月比^(注)、速報)は-3.8%と前月小幅上昇(+0.5%)のあと、大幅減少を示した(前年同月比+2.0%)。

(注) 以下増減率は特に断わらない限り前月比または前期比(物価を除き季節調整済み)。

これを財別にみると、耐久消費財が微増となったものの、建設財、生産財が引続きかなりの減少となったほか、資本財輸送機械、一般資本財、非耐久消費財も前月増加のあと減少となった。すなわち、建設財は流通・ユーザー筋の買控えや官公需、住宅投資等末端実需の伸び悩みに対処したメーカーの大幅減産を映じ小形棒鋼、H形鋼、建設用金属製品(アルミサッシ、アルミドア等)、土石製品(コンクリート管等)などを中心に減少し、生産財も自動車部品等一部の品目が増加したものの、有機薬品(エチレン等)、プラスチック(ポリ

エチレン、塩ビ樹脂等)、非鉄地金(アルミ地金等)、同圧延品(アルミ圧延品)、板紙(段ボール原紙、白板紙)等多くの品目が減少を示した。

また、資本財輸送機械は前月著増を示した自動車(バス、トラック等)を中心に大幅減少を示し、一般資本財は事務用機械、特殊産業機械が増加したものの、化学機械が大幅減少となったほか、農業用機械、土木建設機械、エレベータ、ベルトコンベヤ等も減少したため、全体でもかなりの減少となった。さらに、非耐久消費財は冷夏にともなう夏物衣料等の売行き不振からかなりの減少となった。

この間、耐久消費財は国内販売の不振を映じて乗用車(軽自動車、小型自動車)が減少したものの、民生用電気機械、ラジオ・テレビ・音響装置、時計等が増加を示したため、全体ではわずかながら増加となった。

(出荷——大幅減少)

8月の出荷(速報)は-4.2%と5月以来4ヵ月連続の減少となった(前年同月比-0.6%、前年同月比減少は50年11月<前年同月比-2.3%>以来)。

これを財別にみると、建設財、生産財が減勢を

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(一)率・%)

		54年		55年		55年		
		7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	6月	7月	8月
鉱工業	指数	134.2	137.7	143.4	143.6	142.2	142.9	137.4
	前期(月)比	2.0	2.6	4.1	0.1	-0.9	0.5	-3.8
	前年同期(月)比	8.6	9.1	11.4	9.1	7.4	6.5	2.0
投資財		2.6	3.0	3.5	1.3	-0.4	1.8	-5.4
資本財		3.3	3.5	4.1	2.6	1.3	3.2	-6.5
同(輸送機械を除く)		2.2	3.2	4.3	2.7	0.5	1.0	-4.4
輸送機械		5.0	6.4	4.4	2.3	3.9	9.9	-14.4
建設財		1.1	2.1	1.7	-1.8	-4.3	-1.7	-2.6
消費財		2.5	3.1	5.2	-0.6	-0.1	1.4	-2.7
耐久消費財		6.4	4.3	7.8	2.3	-0.6	1.1	0.1
非耐久消費財		-0.4	2.0	2.8	-2.9	-0.8	2.3	-3.9
生産財		1.3	2.2	3.6	-0.1	-1.9	-1.0	-3.7

(注) 通産省調べ。55年8月は速報。
前年同期(月)比は原指数による。

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(一)率・%)

		54年		55年		55年		
		7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	6月	7月	8月
鉱工業	指数	130.8	134.8	139.2	138.5	136.6	136.5	130.7
	前期(月)比	0.8	3.1	3.3	-0.5	-0.6	-0.1	-4.2
	前年同期(月)比	7.2	8.7	9.6	6.8	5.1	3.9	-0.6
投資財		2.6	3.0	2.0	0.4	-0.4	2.2	-4.8
資本財		3.4	4.4	1.5	2.8	0.8	4.2	-6.5
同(輸送機械を除く)		3.9	4.3	0.8	2.0	1.3	1.3	-4.9
輸送機械		3.2	6.1	0.6	4.8	-0.5	11.6	-8.7
建設財		1.2	1.0	2.3	-4.4	-3.4	-1.2	-1.0
消費財		0.6	2.8	6.1	-0.8	2.4	-0.6	-3.0
耐久消費財		3.1	4.5	8.8	4.2	2.5	-3.7	-0.3
非耐久消費財		-2.3	2.2	3.6	-4.6	1.3	3.4	-4.0
生産財		0.5	2.7	2.7	-1.2	-2.1	-2.0	-4.2

(注) 通産省調べ。55年8月は速報。
前年同期(月)比は原指数による。

続け、資本財輸送機械、一般資本財も減少に転じたほか、消費財も非耐久消費財を中心に減少を示すなど軒並み減少となった。すなわち、建設財はアルミサッシ、アルミドア等一部の品目が流通・ユーザー筋の在庫調整の進捗を映じて増加したものの、小形棒鋼、H形鋼、土石製品(道路用コンクリート製品等)などが官公需、住宅投資等末端需要の伸び悩みから減勢を続けたため、全体では6ヵ月連続の減少となった。生産財は、自動車部品等一部の品目が増加したものの、非鉄地金(アルミ地金)、同圧延品(アルミ圧延品)、有機薬品(エチレン等)、プラスチック(ポリエチレン、塩ビ樹脂等)、洋紙(包装用紙等)、板紙(段ボール原紙、白板紙)や、紡績(合繊紡績糸)、織物(綿織物、毛織物)が流通・ユーザー筋の在庫調整を映じ減少したため、全体では4ヵ月連続の減少となった。

また、資本財輸送機械は国内向け自動車販売の不振を映じて小型自動車、トラック等を中心に大幅な減少を示し、一般資本財は事務用機械が増加を続け、特殊産業機械、土木建設機械も増加したものの、化学機械が大幅減少となり、農業用機械や非製造業設備投資関連のエレベータも減少を示したため、全体では4ヵ月ぶりの減少となった。さらに消費財についても、非耐久消費財は冷夏の影響からニットおよび繊維二次製品等を中心に減少し、耐久消費財も民生用電気機械や光学機械・同部品が増加したものの、乗用車が内需の不振から、二輪自動車、ラジオ・テレビ・音響装置が輸出の減少からいずれも減少を示したため、全体では微減となった。

(在庫——4ヵ月ぶりに微減)

8月の生産者製品在庫(速報)は-0.1%と前3ヵ月かなりの増加を示したあと、4ヵ月ぶりに微減となった。この間、在庫率指数(50年=100)は92.8(前月88.8)と50年11月(95.4)以来4年9ヵ月ぶりの高水準となった。

これを財別にみると、資本財輸送機械、非耐久消費財は減少したものの、建設財、生産財が、メ

ーカーの減産にもかかわらずなお増加を続けたほか、一般資本財、耐久消費財も増加となった。すなわち、建設財では小形棒鋼、H形鋼、建設用金属製品(アルミサッシ)等一部がメーカーの減産奏効や流通・ユーザー筋の在庫調整の進捗を映じ減少に転じたものの、土石製品(コンクリートパイプ、コンクリートブロック等)などが官公需の不振を映じて増勢を続けたため、全体ではなお増加を続けた。また、生産財でも有機薬品(エチレン等)、プラスチック(ポリエチレン、塩ビ樹脂等)がメーカーの減産奏効から久方ぶりに減少に転じ、板紙(段ボール原紙、白板紙)の増勢も鈍化した。非鉄地金(アルミ地金)、同圧延品(アルミ圧延品)が流通・ユーザー筋の在庫調整の継続から著増を示したほか、紡績(綿糸、毛糸)、織物(綿織物、毛織物)、紙(包装用紙等)も増加したため、全体では3月以降6ヵ月連続して増加した。さらに、一般資本財は需要好調から生産高水準の事務用機械等が増加を続けたほか、農業用機械、特殊産業機械等の増加もあって、引続き増加を示した。また、耐久消費財は自動車が減少したものの、民生用電気機械(電気冷蔵庫、セパレート型エアコン等)、ラジオ・テレビ・音響装置(ラジオ受

鉱工業在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減(一)率・%)

		54年 (期末)		55年 (期末)		55年		
		9月	12月	3月	6月	6月	7月	8月
鉱指	数	103.2	105.9	107.3	110.3	110.3	112.5	112.4
工	前期(月)末比	2.4	2.6	1.3	2.8	1.7	2.0	0.1
業	前年同期(月)末比	1.2	3.8	5.0	9.4	9.4	10.8	10.9
投資財		-0.3	3.7	1.9	8.2	2.2	3.2	-0.9
資本財		1.8	2.6	4.2	6.3	1.8	3.3	-1.4
同(輸送機械を除く)		0.3	3.3	5.9	7.5	1.9	2.5	2.1
輸送機械		4.7	1.0	1.6	4.5	1.2	4.1	-7.1
建設財		-3.2	3.7	0.9	10.2	3.0	2.4	0.3
消費財		4.8	8.4	2.6	-3.4	-0.1	1.0	-2.4
耐久消費財		6.8	8.0	4.4	-2.4	-1.9	2.9	0.5
非耐久消費財		4.0	6.8	0.8	-4.1	1.3	0.3	-5.0
生産財		2.7	-1.9	-0.5	4.7	2.3	2.1	2.6

(注) 通産省調べ。55年8月は速報。
前年同期(月)末比は原指数による。

信機等)、二輪自動車等が増加を示したため、全体でも小幅ながら増加となった。

この間、資本財輸送機械はバスやトラックの減少を主因にまた、非耐久消費財は灯油、家庭用薄葉紙、浴用石けん等の減少を映じてかなりの減少を示した。

(民間設備投資——機械受注、建設工事受注とも減少ながら引続き高水準)

8月の機械受注(船舶、電力を除く民需)は、-12.1%と前2ヵ月横ばい圏内(6月-0.6%、7月+0.5%)となったあと、かなりの減少を示したが、前年対比では+12.2%と依然高水準を続けた。業種別にみると、非製造業からの受注が-11.0%と前月に引続き減少となった(前年同月比+6.4%)。また、製造業からの受注も化学向けがかなりの減少を続け、鉄鋼向けも反動減となったほか、これまで好調を続けていた自動車、機械向けも小幅ながら減少したため、-9.0%と減少を示した(前年同月比+22.5%)。なお、電力からの受注は前月著増(+119.0%)のあと-13.4%と小幅減少となったが、前年対比では高水準を持続した(前年同月比+45.8%)。

8月の一般資本財出荷(速報)は-4.9%と4ヵ月ぶりに減少となった。品目別にみると、事務用

機械が増加を続け、特殊産業機械や土木建設機械も増加となったが、化学機械が大幅減少となったほか、農業用機械や非製造業設備投資関連のエレベータも減少を示した。

8月の建設工事受注額(民間分、速報)は-8.8%と前2ヵ月増加(6月+10.7%、7月+2.1%)のあと、減少を示したが、前年対比では高水準の伸びを続けた(前年同月比+10.0%)。

◇小売商況はやや持直し

8月の全国百貨店売上高(通産省調べ、前年比)は、前月不振(+6.1%)のあと曜日要因も加わって+9.9%と伸びを高めた。品目別には冷夏の影響から夏物家電製品の売行きが不振を続けたものの、衣料品が前半の夏物バーゲンや後半の秋物早期販売の奏効から持直しをみせたほか、身の回り品や食料品も高い伸びを示した。また9月に入ってから、秋冬物衣料品を中心に持直し傾向が続けている模様である。

9月の主要耐久消費財の販売状況をみると、乗用車新車登録台数(軽を除く、前年比)は-10.2%と主力小型車の不振を映じて引続き大幅な減少となり、4月以降6ヵ月連続して前年水準を下回った。一方、家電製品の販売はビデオテープレコーダー、電子レンジ、ステレオ等が好調を持続したほか、カラーテレビ等も幾分持直すなど、全体としてもエアコン等夏物商品の販売期が過ぎるにつれ、徐々に持直しを示している。

◇商況の基調——軟調

9月の商品市況をみると、石油製品(ガソリン、中間留分)、厚板、砂糖が上伸したものの、製材、C重油が統落したほか、先月反発した棒鋼、天然繊維、合板が早くも反落し、冷延薄板、ポリエステル糸もここへきて久方ぶりに値下りするなど、全体として軟調裡に推移した。

これは、①民間建築の落込み(製材、薄板)や官公需を中心とする秋需の出足低調(棒鋼、合板、紙等)に加え、②冷夏に伴う夏物家電等の売れ行き不振の影響が関連資材の出荷減(薄板、段ボール原紙)というかたちで予想外に尾を引いているこ

需要先別機械受注・建設工事受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位：億円)

		54年	55年		55年		
		10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	6月	7月	8月
機械受注	民需	5,321 (5.9)	5,094 (- 4.3)	6,331 (24.3)	5,542 (- 27.4)	6,254 (12.8)	5,367 (- 14.2)
	同(船舶・電力を除く)	4,102 (11.5)	4,290 (4.6)	4,506 (5.0)	4,563 (- 0.6)	4,584 (0.5)	4,028 (- 12.1)
	製造業	2,201 (17.9)	2,363 (7.3)	2,634 (11.5)	2,336 (- 15.8)	2,416 (3.5)	2,198 (- 9.0)
	非製造業	3,109 (- 0.5)	2,790 (- 10.3)	3,667 (31.4)	3,159 (- 34.6)	3,787 (19.9)	3,131 (- 17.3)
	同(船舶・電力を除く)	1,905 (4.5)	1,923 (1.0)	1,959 (1.8)	2,257 (21.0)	2,142 (- 5.1)	1,906 (- 11.0)
建設工事受注		3,532	4,292	4,071	4,072	4,158	3,790
(民間)		(1.3)	(21.5)	(- 5.1)	(10.7)	(2.1)	(- 8.8)

(注) 機械受注は経済企画庁調べ。建設工事受注は建設省調べ(43社ベース)。カッコ内は前期(月)比増減(%)率(%)。

と、③また、流通・ユーザー筋では、最近の円高傾向をながめて原料コスト低下に伴う製品先安観が根強く、これまでの買い控え姿勢を堅持(合繊、紙、製材・合板)したこと、④一部品目では再び輸入玉の流入増(合繊、綿糸、石化)がみられたこと、など需給が全般的に引き緩み気味となっていることが主たる背景。

このほか、一部ながら減産の足並みに乱れが生じたこと(棒鋼、合板)、加えて棒鋼では、イラン・イラクの国境紛争に伴い10月以降の輸出急減予想が強まったこと、などの事情も挙げられる。

(卸売物価——為替円高を主因に3か月ぶりの下落)

9月の卸売物価は、前月比-0.3%と6月(同-0.2%)以来3か月ぶりの下落となった。品目別にみると、輸入品(原油のほか、丸太類、原料炭等が下落)がサウジ原油の値上げにもかかわらず、円高に打ち消された形で、また輸出品(熱延広幅帯鋼等)も為替要因を主因に、それぞれ前月比-1.6%、-1.8%と反落した。この間、国内品は、市況性商品が製材・木製品、化学製品、パルプ・紙・同製品等を中心に前月に引続き下落したことなどから、前月比+0.1%と53年12月(同+0.3%)以来の低い伸びとなった。用途別にみても、素原

卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(前月(期)比騰落率・%)

	ウェイト	55年		55 年				
		4～6月 平 均	7～9月 平 均	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
総 平 均	1,000.0	4.8	0.7	- 0.2	- 0.1	0.4	0.7	- 0.3
食 料 品	140.9	3.5	1.5	1.4	0.1	0.5	0.6	0.5
非食料農林産物	18.9	- 2.0	- 6.8	- 2.9	- 6.0	- 1.5	1.3	- 3.6
織 維 製 品	62.9	2.6	- 0.4	0	- 0.6	- 0.4	0.5	0.3
製 材・木 製 品	33.6	1.4	- 6.2	- 0.5	- 2.8	- 1.9	- 2.3	- 2.8
パルプ・紙・同製品	28.9	11.1	1.0	1.9	1.2	0.1	- 0.6	- 0.7
金 属 素 材	12.6	- 10.3	- 2.4	- 4.9	- 5.3	3.6	0.3	- 2.2
鉄 鋼	80.7	5.7	- 1.2	- 0.9	- 1.5	- 0.2	0.7	- 0.6
非 鉄 金 属	26.1	- 11.1	- 1.1	- 5.1	- 1.3	1.6	0.1	- 0.1
金 属 製 品	37.0	5.0	2.3	0.7	1.2	0.8	0	1.3
電 気 機 器	73.3	1.1	0.6	0.3	0	0.5	0.2	- 0.3
輸 送 用 機 器	74.0	0	1.2	- 1.2	0	1.3	0.6	- 0.3
一 般・精 密 機 器	95.7	1.6	1.3	0.4	0.3	0.7	0.5	0.2
化 学 製 品	91.1	6.0	0.6	0.7	0.1	0.4	- 0.1	- 0.1
石油・石炭・同製品	102.2	10.1	2.6	- 0.4	0.8	- 0.3	4.0	- 0.6
窯 業 製 品	30.5	7.5	1.7	0.8	0.1	1.0	0.5	0.1
電 力・ガ ス	25.5	43.5	3.5	0.3	- 1.0	4.8	- 0.8	- 0.6
雑 品 目	66.1	2.8	1.6	0.2	2.2	0.1	- 0.1	0.1
工 業 製 品	816.4	4.3	0.8	0.5	0.2	0.2	0.6	- 0.1
大 企 業 性 製 品	579.9	4.9	1.4	0.6	0.3	0.2	1.0	0
中 小 企 業 性 製 品	214.6	3.8	- 0.4	0.6	- 0.3	- 0.1	- 0.3	- 0.3
非 工 業 製 品	158.1	1.5	- 0.5	- 2.5	- 1.1	0.5	1.4	- 1.0
国 内 品	801.9	5.9	1.4	0.9	0.5	0.3	0.5	0.1
輸 出 品	94.2	- 0.4	- 2.2	- 4.1	- 2.7	0.9	1.1	- 1.8
輸 入 品	103.9	1.7	- 1.5	- 3.9	- 2.6	0.8	2.0	- 1.6

(注) 日本銀行調べ。

材料、中間品が反落(中間品は1年10か月ぶりの反落)したほか、完成品も資本財、消費財とも騰勢を弱めており、全体として落ち着き傾向が強まっている。

(消費者物価——9月<東京都区部、速報>は+1.7%の大幅上昇)

9月の消費者物価(東京都区部、速報)は、季節商品と被服の値上りから、前月比+1.7%の大幅上昇となり、前年同月比でも+8.9%と52年8月(同+9.5%)以来3年1か月ぶりの高い上昇率となった。もっとも、季節商品を除く総合では同+8.3%と前月(同+8.8)%を下回った。

内訳をみると、季節商品は野菜が冷夏の影響から、また果物が秋物の高値出回りからそれぞれ大幅に値上りしたため、前月比+11.2%と高騰した。また被服も婦人既製服等秋冬物衣料の高値出回りから同+6.6%とかなりの上昇となった。

◇総合収支は黒字幅を拡大

8月の国際収支をみると、貿易収支が輸入の落込みを主因に314百万ドルの黒字と前月(同113百万ドル)比黒字幅を拡大したため、経常収支の赤字幅も864百万ドルと前月(同1,030百万ドル)比縮小した。

この間、長期資本収支は対日証券投資の増加を主因に4か月連続の大幅流入超となったため、総合収支では879百万ドルの黒字と黒字幅を一段と拡大した(前月同322百万ドル)。

なお、8月の季節調整後の貿易収支は、輸出入とも減少したなかで輸入が輸出を上回る落込みとなったため、前月赤字のあと3か月ぶりに黒字に転じた(696百万ドルの黒字、前月427百万ドルの赤字)。

この間、8月末の外貨準備高は23,048百万ドルと5か月連続の増加となった(前月末比+255百万ドル)。

消費者物価指数の推移

(前月<期>比騰落率・%)

		ウェイト	55 年		55 年			最近月の 前 同 月 比
			4～6月 平	7～9月 平	7 月	8 月	9 月	
東 京	総 合	100.0	2.9	* 1.2	0.4	- 0.2	* 1.7	* 8.9
	季節商品を除く総合	91.9	4.9	* 1.1	0	- 0.3	* 0.9	* 8.3
	(季節商品)	(8.1)	(- 15.1)	(* 1.9)	(4.7)	(0.3)	(* 11.2)	(* 15.3)
	食 料	40.1	- 1.9	* 1.2	1.2	0.5	* - 2.6	* 7.7
	住 居	11.1	2.3	0.8	0.4	0.2	0.2	5.4
京	光 熱	4.2	38.7	0.6	0.4	0	- 0.1	45.2
	被 服	12.4	4.5	- 0.2	- 1.6	- 4.7	6.6	6.9
	雑 費	32.2	4.0	* 1.5	0.1	0.5	* 0.1	* 7.6
全 国	総 合	100.0	3.2	...	0.2	- 0.1	...	8.7
	季節商品を除く総合	91.7	4.8	...	0.2	- 0.4	...	8.9
	(季節商品)	(8.3)	(- 9.6)	(...)	(0.2)	(2.6)	(...)	(- 6.9)
	特殊分類							
	農 水 畜 産 物	16.3	- 5.7	...	0.1	2.6	...	6.4
	工 業 製 品	46.6	4.5	...	0	- 1.8	...	8.4
	うち大企業性製品	21.4	4.0	...	0	- 0.2	...	9.5
	中小企業性製品	25.2	4.8	...	0	- 3.1	...	7.4
	サ ー ビ ス	33.6	6.1	...	0.3	0.5	...	9.5

(注) 1. 総理府統計局調べ。
2. *印は速報。

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	54 年	55 年		55 年			前年同月
	10～12月	1～3月	4～6月	6 月	7 月	8 月	
経 常 収 支	△ 3,688	△ 5,810	△ 4,533	△ 929	△ 1,030	△ 864	△ 1,510
貿 易 収 支	△ 1,013	△ 2,593	△ 1,300	127	113	314	△ 680
輸 出	27,828	26,718	30,841	10,807	11,241	10,133	8,158
輸 入	28,841	29,311	32,141	10,680	11,128	9,819	8,838
貿 易 外 収 支	△ 2,402	△ 2,724	△ 2,841	△ 913	△ 1,003	△ 1,088	△ 755
移 転 収 支	△ 273	△ 493	△ 392	△ 143	△ 140	△ 90	△ 75
長 期 資 本 収 支	△ 3,782	609	138	1,200	799	1,075	355
本 邦 資 本	△ 3,549	△ 2,211	△ 1,603	△ 552	△ 830	△ 1,056	△ 966
外 国 資 本	△ 233	2,820	1,741	1,752	1,629	2,131	1,321
基 礎 的 収 支	△ 7,470 (△ 8,070)	△ 5,201 (△ 4,477)	△ 4,395 (△ 3,894)	271 (△ 134)	△ 231 (△ 771)	211 (△ 711)	△ 1,155 (△ 630)
短 期 資 本 収 支	1,169	891	△ 205	487	324	260	833
誤 差 脱 漏	762	△ 1,282	△ 1,023	△ 758	229	408	△ 65
総 合 収 支	△ 5,539	△ 5,592	△ 5,623	0	322	879	△ 387
金 融 勘 定	△ 5,539	△ 5,592	△ 5,623	0	322	879	△ 387
外 貨 準 備 増 減	△ 5,008	△ 1,784	4,099	1,238	151	255	52
そ の 他	△ 531	△ 3,808	△ 9,722	△ 1,238	171	624	△ 439
外 貨 準 備 高	20,327	18,543	22,642	22,642	22,793	23,048	25,167
為 銀 対 外 ポ ジ シ ョ ン	△ 20,262	△ 23,926	△ 33,627	△ 33,627	△ 32,939	△ 32,291	△ 17,482

(注) 1. 基礎的収支カッコ内は、貿易収支のみ季節調整した計数。
2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。
3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支ベース			通 関		輸 出	輸出認証 届 出	輸入承認 届 出
	輸 出	輸 入	貿易じり	輸 出	輸 入	信 用 状		
54年 10～12月平均	8,825 (+ 2.6)	9,362 (+ 4.8)	△ 537	8,929 (+ 2.4)	10,572 (+ 7.7)	6,892 (+ 6.0)	9,600 (+ 6.0)	11,283 (+ 5.4)
55年 1～3月平均	9,338 (+ 5.8)	9,961 (+ 6.4)	△ 623	9,663 (+ 8.2)	11,188 (+ 5.8)	7,341 (+ 6.5)	10,039 (+ 4.6)	13,209 (+ 17.1)
4～6 〃	10,395 (+ 11.3)	10,662 (+ 7.0)	△ 267	10,645 (+ 10.2)	12,163 (+ 8.7)	7,223 (- 1.6)	11,009 (+ 9.7)	13,621 (+ 3.1)
55 年 5 月	10,558 (+ 7.6)	10,437 (- 0.2)	121	10,879 (+ 7.2)	11,567 (- 4.8)	7,484 (+ 4.1)	10,819 (+ 0.5)	13,850 (- 0.1)
6 〃	10,816 (+ 2.4)	11,092 (+ 6.3)	△ 276	10,909 (+ 0.3)	12,769 (+ 10.4)	6,999 (- 6.5)	11,455 (+ 5.9)	13,154 (- 5.0)
7 〃	10,719 (- 0.9)	11,146 (+ 0.5)	△ 427	11,026 (+ 1.1)	12,804 (+ 0.3)	7,271 (+ 3.9)	11,536 (+ 0.7)	13,448 (+ 2.2)
8 〃	10,526 (- 1.8)	9,830 (- 11.8)	696	10,844 (- 1.6)	11,052 (- 13.7)	7,495 (+ 3.1)	11,230 (- 2.7)	12,836 (- 4.6)

(注) 1. カッコ内は対前期(月)比増減(－)率(%)。
2. 輸出信用状接受高および輸入承認・届出額は、特殊大口を除く。

(輸出——小幅減少)

8月の輸出(国際収支ベース、季節調整済み)は-1.8%と前月(-0.9%)に続き小幅ながら減少した。品目別(通関ベース)にみると、鉄鋼、化学肥料などの素材関連品目が数量減から金額ベースでも減少し、また機械類では自動車、プラント類が好伸したものの、前月著伸の弱電が反動減となった。

なお、9月の輸出信用状接受高(季節調整済み)は+6.0%と前月(+3.1%)に続き増加した。品目別には繊維が減少したほかは、自動車、電気機

械、化学、鉄鋼とも増加となった。

(輸入——大幅減少)

8月の輸入(国際収支ベース、季節調整済み)は-11.8%と前月微増(+0.5%)のあと大幅減少となった。品目別(通関ベース)にみると、原油、鉄鋼原材料(鉄鉱石、石炭等)、綿花など多くの品目が数量減を主因に前月比減少し、なかでも内需不振の木材は数量、価格とも前年水準を下回った。

なお、9月の輸入承認届出額(特殊大口除外、季節調整済み)は、-7.1%と前月(-4.6%)に続き減少となった。